

ことで「敬の心」が伝わるように考えたのです。「廟舎を視ればすなわち敬を思う」ように、聖廟を拝むだけで自然に孔子の教えの基本が身に付くことを願っていました。茂文公が一番伝えなかったのは、儒学の思想や学問の難解な面ではなく、親を大切にし、人を敬い、礼儀を尽くすという「人として行うべき道」。それを領民すべてが共有することとで人の心がよみがえり、やがて多久領がよみがえるということを願っていたでしょう。

た く せいびょう 多久聖廟

多久聖廟の建設に携わった労働者の数は9,224人。これは、当時の多久邑(村の意味)の人口とほぼ同じ数に値します。柱などの木材は、多久領内各地の神社や寺院などから満遍なく集め、屋根瓦は小侍窯で焼き、石材は藤川内の岩古場で調達するなど、職人も材料もすべて多久の地元のみで集めたとされています。多久の人々がつくり守ってきた聖廟。先人たちの志の高さと教育への熱い思いが伝わってきます。



1 静寂で緑豊かな敷地にたたずむ、枳葉の舞台となる多久聖廟 2 孔子像は八角形の厨子「聖龕」に納められています。聖龕の解体法は秘伝。現在2人にしか口伝えされていないそうです(中村惕斎/1700年作) 3 天井には、絵師・御厨夏園による蟠龍が描かれています。生きているような見事な出来栄に、龍が夜な夜な天井を抜け出さないよう、鱗を1枚はがしたなどという伝説があります。



孔子を祀る建物であるため中国の吉祥文や孔子ゆかりの聖獣などが建物の内外に施されています。柏=子孫繁栄、鯉=学問成就などそれぞれに意味があり、縁起がいいものとされています。



聖廟内の公開は
期間限定！



とうげん しょうしゃ 東原厩舎

元禄12年(1699)に茂文公が建てた学問所です。厳しい身分制度だった当時は、武士の子どもしか通えない学校がほとんどでした。しかし、多久では東原厩舎で農民や町民の子弟も志があれば学ぶことができました。漢学や和学、武芸など幅広い授業が行われ、25歳までに一定の単位を修得することが義務付けられ、厳格な規範のもとに学んだのです。現在は、研修の場として利用されています。

問い合わせ |
公益財団法人 孔子の里
多久市多久町1843-1
☎75-5112



数多くの
人材を輩出！

同時開催！

- 3月20日(日)～29日(火) 10時～17時
春の園児作品展(西溪公園内 寒鷺亭)
- 3月26日(土)・27日(日) 10時～15時
国重要文化財 多久聖廟春の一般公開
- 3月26日(土)～31日(木) 10時～17時
森家のひなまつり(くど造り民家 森家住宅)

問い合わせ |
多久市観光協会 ☎74-2502

3月20日(日)のオープニングイベントでは、多久東部太鼓保存会による和太鼓の演奏や孔子の里獅子舞の演舞などが行われます



3月20日(日)～29日(火) 孔子の里 桜まつり

●西溪公園サテライト会場 多久聖廟
10時～17時 入場無料

21日(祝・月)は雑貨販売など行うマルシェや、26日(土)はワークショップやサイエンスショー、27日(日)は多久高校による演奏会や、多久ミュージカルカンパニー(TMC)のステージ、佐賀北高校による書道パフォーマンスなどイベント盛りだくさんの10日間です。